A 総合教育科目

科目 法学（憲法を含む） 2単位

担当 講師 髙田久実

現代社会における日々の生活が、「法」の存在を無視して成り立つものでないことは周知の事実であろう。そのような「法」をめぐる知見を深めるため、法律学を学ぶ基盤を形成することが本講義の目的である。法律学を理解するうえで基本的かつ重要な論点を考察することにより、法的な知識および思考の獲得を目指す。

〔第１回〕 開講にあたって・法律学に関する基礎文献について
〔第２回〕 「六法」の利用・法令の構造・難読難解法律用語
〔第３回〕 法令用語をめぐって・法律格言
〔第４回〕 法規範および法存在の根拠をめぐる学説
〔第５回〕 法源（法の存在形式）―成文法と不文法
〔第６回〕 わが国における成文法
〔第７回〕 わが国における不文法
〔第８回〕 法の種類①
〔第９回〕 法の種類②
〔第10回〕 法の効力
〔第11回〕 法の解釈と適用
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・霞信彦『法学講義ノート〔第６版〕』（慶應義塾大学出版会、2016年）
ISBN 978-4-7664-2311-2

◆参考文献

・霞信彦編『法学概論』（通信テキスト、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講者には積極的に六法を引き、法律に親しんでもらいたい。ただし、「六法」については初回講義においてガイダンスをおこなうので、その後の購入をすすめる。

◆成績評価方法

講義最終日に筆記試験を実施する。出題形式等については、講義中に指示する。

科目 英語（リーディング） 1単位

担当 文学部教授 髙橋宣也

テクストは、英語の単語の由来を尋ねる内容です。章ごとに一つの単語が取り上げられて、今では何気なく用いられている語が、どのような経緯で現代のような意味や用法となったのかをたどります。簡明な説明を正確に読む訓練を行います。同時に、テクストの内容から英語そのものへの興味も高まることを期待します。

〔第１回〕 導入、第１章
〔第２回〕 第２章
〔第３回〕 第３章
〔第４回〕 第４章
〔第５回〕 第５章
〔第６回〕 第６章
〔第７回〕 第７章
〔第８回〕 第８章
〔第９回〕 第９章
〔第10回〕 第10章
〔第11回〕 第11章
〔第12回〕 まとめと質問受付、試験

◆テキスト

・Isaac Asimov『Words from History I（英単語のロマンスI〔改訂版〕）』（鷹書房弓プレス、1993年）
ISBN 978-4-8034-1154-6

◆受講上の要望または受講上の前提条件

テクストの英語は比較的平易ですが、細部をおろそかにせずにきちんとした読解を目指しますので、綿密な予習が必要です。各章にある練習問題は、１番から３番までをやってきてください。授業のペースは実際の進度によりますので、上記の計画はあくまでも目安です。

◆成績評価方法

平常の出席と授業での成果、試験によります。

科目 英語（ライティング） 1単位

担当 法学部教授 レイサイド，ジェイムス M.

Fundamentally we will be using the textbook which offers a number of linked exercises progressing from reading a sample text to writing a similar piece following discussion with the instructor and fellow students. Students will be able to comment on each other's draughts as well as make revisions before the final piece of writing. However, the nature of the exercises may change in accordance with the level and needs of the class members.

〔第１回〕 Introductory. Preliminary Writing Assessment
〔第２回〕 Unit One Chapter One: Reading and Discussing (Journal work)
〔第３回〕 Unit One Chapter One: Draughting and editing
〔第４回〕 Completing and correcting writing assignment for Unit One Chapter One
〔第５回〕 Unit One Chapter Two: Reading and Discussing (Journal work)
〔第６回〕 Unit One Chapter Two: Draughting and editing

〔第７回〕 Completing and correcting writing assignment for Unit One Chapter Two
〔第８回〕 Unit One Chapter Three: Reading and Discussing (Journal work)
〔第９回〕 Unit One Chapter Three: Draughting and editing
〔第10回〕 Completing and correcting writing assignment for Unit One Chapter Three
〔第11回〕 Unit Two Chapter Four: Draughting and editing
〔第12回〕 Completing and correcting writing assignment for Unit Two Chapter Four

◆テキスト

・Trudy Smoke『A Writer's Workbook: A Writing Text with Readings〔Fourth Edition〕』(Cambridge University Press、2005年)
ISBN 978-0-521-54489-4

◆受講上の要望または受講上の前提条件

As noted in the course description some aspects of the course content may have to vary according to the nature and average level of the class.

◆成績評価方法

Submitted Writing Work
Class Attendance

B 文学部専門教育科目

科目 社会学（専門） 2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 ／ 講師 高山 真

「生と感情の社会学」をアートベース・リサーチという手法で受講者と一緒に作り出します。

たとえば社会学の基本の１つである社会調査、否応なく人と関わるこの学的な営みを、どこに位置づけ、その営みの中で自らをどこに位置づけていくのか、対象を客観化する知が、ただそれだけ評価されるような時代は過ぎ去り、いまや、知の生産と消費を担ってきた大学アカデミズムも現代社会に立ち位置を失いつつある。学問の死を謳うのはたやすい、しかしだからこそ、社会学という営みを再び肯定的に捉える視角が必要ではないのか。生の社会学とは、生を社会学的に説明する営みに還元されるようなものではなく、生きられる社会学であり、生きることを生きようとする、そんな試みだと考えてほしい。

生の多様性をめぐる議論があるとして、それを、いかに自分が生きるのかという問いに、どのように結びつけることができるのだろうか。この授業で参加者と一緒に僕たちが考えてみたいのは、これである。具体的にどうするのかといえば、僕らが教卓に座って講義することはまずない。全員が全員に向けて講義をする。受講者は他の受講者にとってのゲストスピーカーになり得るということである。生を生きるという資格においてひとりひとりの参加者がゲスト講師たりえるのである。チームに分かれてライフストーリーを互いに聞き、中からいくつかの生を他の受講者に伝える試みとなろう。

この伝える試みとして、アートを利用した社会学実践を行う。アートベース・リサーチと呼ばれ、多種多様なアートワークが利用されるが、ここでは身体的な演劇的な手法を用いる（パフォーマンス・エスノグラフィ）。さらに、詩や文学、映像や音楽なども利用する。自分が話を聞いて、その人の経験をなぞるという実験的で枢要な試みとなる。

なお、夏期スクーリングと今年度週末スクーリングで開講する「社会学（専門）」の内容は同じです。またどちらも受講者の数も抽選で50名以下に絞ります。両方の授業を履修することはできません。

〔第１回〕 授業全体の構想について、チーム編成
〔第２回〕 生活史、自分史のシェア
〔第３回〕 ライフストーリーとは、アートベース・リサーチとは
〔第４回〜第10回〕 チーム活動
〔第11回〜第12回〕 プレゼンテーション

授業に関する情報は下記のホームページで
http://lebenssoziologie.jimdo.com

◆テキスト

・岡原正幸・小倉康嗣他『感情を生きる』(慶應義塾大学出版会、2014年)
ISBN 978-4-7664-2123-1
・岡原正幸『感情資本主義に生まれて』(慶應義塾大学出版会、2013年)
ISBN 978-4-7664-2042-5
・高山真『〈被爆者〉になる』(せりか書房、2016年)
ISBN 978-4-7967-0353-6

◆参考文献

・小倉康嗣『高齢化社会と日本人の生き方―岐路に立つ現代中年のライフストーリー』(慶應義塾大学出版会、2006年)
・岡原正幸他『生の技法〔第３版〕―家と施設を出て暮らす障害者の社会学』(生活書院、2013年)
・岡原正幸『ホモ・アフェクトス』(世界思想社、1998年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

自分の生について語ることが求められるでしょう。また他者の生について傾聴し、一緒に考えることも求められるでしょう。事前に、自分史や家族史、自分が生きてきた中での特定の記憶や体験について、3000〜5000字程度でまとめておいてください。書式や用紙は自由です。この課題は授業初回に持参してください。それを土台に皆さんのスピーチを作成してもらいます。また言うまでもありませんが、受講者間でのやりとり、授業内でのやりとりが個人的なものに関わる以上、当事者の了承なくして外部に公開することは避けてください。

夏期スクーリングと今年度週末スクーリングの内容は同じです。またどちらも受講者の数も抽選で50名以下に絞ります。両方の授業を履修することはできません。

◆成績評価方法

試験は行いません。おもに出席によって評価します。チーム活動への影響が大きくなるような欠席回数は成績に大きく響きます。

科目 フランス文学 2単位

担当 文学部教授 岑村 傑

心の内の秘め事を告白すればすべてはうまくいき、恋なら成就して、罪なら赦される……とはならないのが、世の習いである。告白は、とりわけ文学のなかの告白は、たいていが失敗し、ときに災いの種となる。

本講義では、17世紀からラシーヌ『フェードル』とラ・ファイエット夫人『クレーヴの奥方』、19世紀からゾラ『獣人』、20世紀からジッド『狭き門』をとりあげて、それぞれの作品における告白の役割を分析します。

テキストは邦訳を主としつつ、つねにフランス語原文も参照します。結果的には、原文で読むからこそわかること、翻訳ではこぼれおちてしまうことが、浮き彫りになるはずです。

〔第１回〕　はじめに：告白とは何か
〔第２回〕　フェードルの告白（１）
〔第３回〕　フェードルの告白（２）
〔第４回〕　フェードルの告白（３）／クレーヴ夫人の告白（１）
〔第５回〕　クレーヴ夫人の告白（２）
〔第６回〕　クレーヴ夫人の告白（３）
〔第７回〕　セヴリーヌの告白（１）
〔第８回〕　セヴリーヌの告白（２）
〔第９回〕　セヴリーヌの告白（３）／アリサの告白（１）
〔第10回〕　アリサの告白（２）
〔第11回〕　アリサの告白（３）
〔第12回〕　総括

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
原文を参照しますから、フランス語についてすくなくとも初級程度の知識があることが望ましいでしょう。
また、『フェードル』、『クレーヴの奥方』、『獣人』、『狭き門』については、いずれも邦訳がありますので、全体を一読して授業にのぞむようにしてください。
ひとつの主題に着目すれば、異なる時代の異なる作家による作品がこれほどまでに響き合うのだと、驚きとともに知りたい受講者を、歓迎します。
◆成績評価方法
平常点（出席、授業参加度など）と授業内期末試験をもとに、総合的に評価します。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★ 以下の科目の講義要綱は、法学部専門教育科目を参照してください。

【第2類に属する科目】

東洋史特殊　2単位
法学部教授　高橋伸夫
講師　上野正弥

「地域研究（現代中国論）」と同じ。

C 経済学部専門教育科目

科目 経済原論　2単位
担当　講師 八尾政行

我々が直面している「経済」という現象に対し、経済学の役割は実践的にその問題を解決するということが求められている。一方で、経済学には問題が発生する原因やその解決法を理論的に分析することも必要とされている。本講義は現代の経済学の理論研究について、その入門的内容を解説することを目的としている。
現代の経済学は経済の構成員の視点を基にしたミクロ経済学、経済全体を俯瞰する視点を基にしたマクロ経済学に大別される。ミクロ経済学、マクロ経済学は相補関係にあり、両方をよく理解することが重要である。
第１回は総論的な、経済学全体についての概観を講義する。第２回から第７回まででミクロ経済学について触れる。うち第５回までは市場の理論についてであり、最も基礎的な理論となる。第６回から先は市場の失敗と呼ばれる話や、ゲームの理論に関連したトピックを扱う。第８回から第11回まではマクロ経済学のトピックである。
これらを通して学べば、現代の経済学について、特に学問的に経済を分析しようとしている者が持っているべき知識の大部分を吸収することができるものと考えられる。
〔第１回〕　導入
〔第２回〕　ミクロ経済学：消費者理論（１）
〔第３回〕　ミクロ経済学：消費者理論（２）
〔第４回〕　ミクロ経済学：生産者理論
〔第５回〕　ミクロ経済学：市場分析
〔第６回〕　ミクロ経済学：市場の失敗と独占
〔第７回〕　ミクロ経済学：ゲーム理論の基礎と複占
〔第８回〕　マクロ経済学：経済の活動水準
〔第９回〕　マクロ経済学：IS曲線
〔第10回〕　マクロ経済学：LM曲線とIS-LM分析
〔第11回〕　マクロ経済学：経済成長理論
〔第12回〕　総括
◆テキスト
・プリントを適宜配布する。
◆参考文献
・福岡正夫『ゼミナール経済学入門〔第４版〕』（日本経済新聞出版社、2008年）
◆受講上の要望または受講上の前提条件
特に前提となる知識はない。ただし、微分についての知識があると授業をより深く理解することができる。
◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 保険学　2単位
担当　講師 神田恵未※

保険制度は、社会に存在する多種多様なリスクに備えて経済的保障を提供する経済制度として、既に私たちの生活に深く浸透している。本講義では、保険制度が、現実社会の中でいかなる仕組みや原理に基づいて、社会的あるいは経済的機能を果たしているのかを理解することを目的とする。主な講義内容および順序は、以下の通りである。
〔第１回〕　保険の歴史
〔第２回〕　保険の基本理論
〔第３回〕　保険の基本原則
〔第４回〕　保険の構造
〔第５回〕　保険の機能
〔第６回〕　保険とリスク
〔第７回〕　保険と金融
〔第８回〕　保険と経営
〔第９回〕　保険と政策
〔第10回〕　保険と社会
〔第11回〕　特別講義（中国保険市場の成長と課題）
〔第12回〕　総括
◆テキスト
・プリントを適宜配布する。
◆参考文献
・堀田一吉『保険理論と保険政策―原理と機能』（東洋経済新報社、2003年）
・堀田一吉他編著『保険進化と保険事業』（慶應義塾大学出版会、2006年）
・田畑康人・岡村国和編著『人口減少時代の保険業』（慶應義塾大学出版会、2011年）
・下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険〔第４版〕』（有斐閣、2014年）
・近見正彦他『新・保険学』（有斐閣アルマ、2006年）
・近見正彦他編『保険学』（有斐閣、2011年）
◆受講上の要望または受講上の前提条件
特にありません。試験は、講義で話した内容を中心に出題する予定であるので、できる限り授業には出席するよう心がけてください。
◆成績評価方法
課題レポートおよび講義最終日試験の成績による。
※2014年度まで担当の塔林図雅講師と同一人物です。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★ 以下の科目の講義要綱は、文学部専門教育科目を参照してください。

社会学（専門） 2単位　文学部教授 岡原正幸
講師 高山　真

★ 以下の科目の講義要綱は、法学部専門教育科目を参照してください。

政治理論 2単位　法学部教授 河野武司

地域研究（現代中国論） 2単位
法学部教授 高橋伸夫
講師 上野正弥

D 法学部専門教育科目

科目 政治理論　2単位

担当 法学部教授 河野武司

本講義の目的は、政治学が政治現象を理解するために、理論という道具をどのように活用してきたかを概観し、問題設定と分析を行うプロセスを理解することにあります。講義では、市民の政治参加や代議制民主主義の作動に関する主要な概念と理論について、最近の研究や具体的な事例を踏まえながら考察します。具体的には、以下のような計画に沿って進めます。なお、以下の講義計画は、現実の政治において重要な出来事が起こった場合などにそれらについて言及することもあることから、順序や内容について若干の変更がある場合もあります。

〔第１回〕 科学としての政治学と理論の役割
対象と方法によって規定される政治学という学問の特徴
〔第２回〕 科学としての政治学の発展と理論
規範的理論と実証的理論
〔第３回〕 リサーチプロセスの循環的な８段階
①問題意識、②既存研究の確認、③仮説構築、④仮説中の概念の操作化、⑤研究のデザイン、⑥データの収集、⑦分析、⑧理論化
〔第４回〕 政治理論と合理的選択アプローチ
合理的選択アプローチとは何か
利己心と最大化行動、利他主義
〔第５回〕 市民の投票参加をどのように説明するか
期待効用モデル（投票参加の計算式）とミニマックスリグレットモデル
〔第６回〕 市民の投票方向の決定をどのように説明するのか―Ⅰ
コロンビア学派（社会学的分析）
〔第７回〕 市民の投票方向の決定をどのように説明するのか―Ⅱ
ミシガン学派（心理学的分析）と合理的選択
〔第８回〕 利益団体の政治的影響力をどのように説明するのか―Ⅰ
利益の組織化と副産物理論
〔第９回〕 利益団体の政治的影響力をどのように説明するのか―Ⅱ
政治的企業家と政治的交換関係
鉄の三角関係
〔第10回〕 代議制民主主義は失敗するという神話の理論的検討―Ⅰ
A. ダウンズの命題
市民における合理的無知死と「政策における反消費者・生産者支持の偏向」
〔第11回〕 代議制民主主義は失敗するという神話の理論的検討―Ⅱ
D. ウィットマンのフォーク
A. カプランの合理的な非合理性
〔第12回〕 総括

◆テキスト
・指定しない。
◆参考文献
・授業中に適宜紹介します。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
要領よく講義内容をまとめたノートを作成し、それを自分自身の教科書として下さい。
◆成績評価方法
最終日の試験によります。

科目 地域研究（現代中国論）　2単位

担当 法学部教授 高橋伸夫 ／ 講師 上野正弥

21世紀は「中国の世紀」として記憶されることになるかもしれない。中国が抱える巨大な人口と市場、地球環境に与える大きな負荷、そして強大な軍事力などからして、それがわれわれにとって重要な意味を持つ存在であることは疑いない。いまや、中国関連の記事が新聞紙面に登場しない日があるだろうか。Made in Chinaと記された製品なしに、私たちは暮らしてゆけるだろうか。そして、中国人の旺盛な購買意欲に頼ることなしに、日本経済は成長できるのだろうか。答えはいずれも「ノー」である。したがって、私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、この大国についてある程度の知識を持ち、それと付き合う方途を見出すよう迫られているのである。

とはいえ、われわれの外にあるひとつの社会を全体として把握することは難しい。というより、そうしたことはほとんど不可能である。ゆえに、われわれは自分が暮らす社会以外の社会を観察する際には（いや、自分たちの社会を観察する場合でさえ）、自分たちの視野が、つねに限られたものであることを自覚しておくべきである。

この講義では、主として政治学と歴史学という限定された角度から、現代中国に接近するであろう。具体的には、以下のような問題を念頭に置いている。

(1) 中国はどのような道を辿って現在われわれが見ているような姿になったのだろうか。革命は伝統中国の何を変え、何を変えなかったのだろうか。
(2) 政治的にみた場合、現在の中国はどのような特徴を備えているのだろうか。他の国々と比較してみると、何がユニークなのか。
(3) 中国の他国に対する態度には、何か特別な要素があるだろうか。そして、私たちはこの大国とどのように接していくべきなのか。
(4) この国は将来、政治的にどのような変化を遂げる可能性があるだろうか。中国共産党の生命力はどの程度強いのだろうか。中国は革命を通じて民主

化するのだろうか。あるいは、もっと穏やかな方法を通じて民主化するのだろうか。それとも、たんなる大混乱が待ち受けているのだろうか。

講義全体を通じて、受講者自身が現代中国に関して、多少なりとも体系的なイメージを組み立てられるようにすることが目的である。

〔第１回〕 イントロダクション――現代中国研究案内
〔第２回〕 中国政治の環境――土地と人々
〔第３回〕 伝統中国の遺産
〔第４回〕 中国の政治文化
〔第５回〕 現代中国の歴史――1921年～1949年
〔第６回〕 現代中国の歴史――1949年～1989年
〔第７回〕 中国の政治体制（１）
〔第８回〕 中国の政治体制（２）
〔第９回〕 中国のナショナリズムと対外的な態度（１）
〔第10回〕 中国のナショナリズムと対外的な態度（２）
〔第11回〕 中国に再び革命は起きるか？
〔第12回〕 総括

◆テキスト
・高橋伸夫編著『現代中国政治研究ハンドブック』(慶應義塾大学出版会、2015年)
ISBN 978-4-7664-2209-2

◆成績評価方法
最終日の試験による。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

★ 以下の科目の講義要綱は、文学部専門教育科目を参照してください。

社会学（専門） 2単位　文学部教授 岡原正幸　講師 高山　真

★ 以下の科目の講義要綱は、経済学部専門教育科目を参照してください。

経済原論 2単位　講師 八尾政行

保険学 2単位　講師 神田恵未

E

2017年度大阪（週末）スクーリング

経済学部専門教育科目

科目 ゲーム理論　2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

この授業では簡単な講義と問題演習を行うことによってゲーム理論（非協力ゲーム）の基本的な考え方を学びます。

〔第１回〕 赤いぼうしのパズルとpossible worlds model
〔第２回〕 守られる口約束としてのナッシュ均衡
〔第３回〕 ゲームの木における「戦略」
〔第４回〕 情報集合
〔第５回〕 逆向き帰納法
〔第６回〕 シグナリング・ゲーム
〔第７回〕 繰り返しゲーム
〔第８回〕 問題演習（１）
〔第９回〕 問題演習（２）
〔第10回〕 問題演習（３）
〔第11回〕 問題演習（４）
〔第12回〕 まとめ

◆テキスト
・プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・トーマス・シェリング『ミクロ動機とマクロ行動』(勁草書房、2016年)
・梶井厚志『戦略的思考の技術―ゲーム理論を実践する』(中公新書、2002年)

◆成績評価方法
最終日の試験による。

他学部開講共通科目

★この科目は経済学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

哲学特殊 2単位　経済学部教授 穂刈　享
「ゲーム理論」と同じ。

★この科目は経済学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

ゲーム理論 2単位　経済学部教授 穂刈　享